Community 4 Children

地域は子どものために、子どもは地域のために

Children 4 Community

一般社団法人コミュニティ・４・チルドレン
2020 年度事業報告・決算書
(2020 年 6 月 1 日～2021 年 5 月 31 日)
2021 年度事業計画・予算書
(2021 年 6 月 1 日～2022 年 5 月 31 日)

連絡先：一般社団法人コミュニティ・４・チルドレン
〒545-0021　大阪市阿倍野区阪南町 1 丁目 45 番 1－302 号
電話 06－6622－5645　　/Fax　06－6621－7139
E-mail　community_4_children@yahoo.co.jp

はじめに

一般社団法人 コミュニティ・４・チルドレン（以下、C4C)は、皆様の温かいご支援に勇気をいただきました。心より感謝申し上げます。

活動規模は休止や縮小せざるを得ませんでしたが、コロナ禍でもつながりを切らさないように 2020 年度（2020 年 6 月～2021 年 5 月）事業を実施することができましたのでここに報告いたします。

新型コロナウイルスは感染力の強い変異株が発生し、いったん終息の希望が見えていた状況を変えてしまいました。各国各地域の事業に引き続き大きな影響を与えています。

このような状況の中でも現地団体と C4C は定期的にオンラインで状況の共有、工夫した事業展開の報告を受けるなど、アフターコロナを見据えた事業再開に向けた話し合いを続けています。

フィリピンでは、ステイホームでも保護者が過程でできる療育支援や家庭で観葉植物を育てて販売するサバイバルガーデニングプログラム、社会福祉開発局が実施する給付金の申請サポートなどを行いました。タイでは子どもの居場所づくりや有機農場での結を活かした農作業や有機農業の普及、村の公共の土地での植林などを行いました。カンボジアではオンラインでの子どもたちの学業支援、自給を強いられている家庭のために苗の配布や養殖用の稚魚の提供などを行いました。タイとカンボジアの間では草木染の伝承活動も行いました。宮城では、コロナ禍での福祉学習の推進に苦悩する社会福祉協議会間の情報交換会の開催や個別支援を行い、東日本大震災の経験を教訓としてつないでいく防災学習のゲーム開発も進めています。

2021 年度（2021 年 6 月～2022 年 5 月）は、オンラインスタディツアーなどこの状況下で可能な限りつながりを絶やさないような事業を実施してまいります。

皆様には、今後も C4C 便りやホームページ、ブログ等を通じて、現地情報をお伝えしてまいります。また、オンライン中心ですが参加型の取り組みへのお誘いもしてまいりますので是非ご参加下さい。皆様からも活動のアイデアやご意見をいただければ幸いです。

～ 目　　次 ～

・ はじめに　－ i

・ 2020 年度事業報告書　－1

1．NGO 支援事業　－1

1－1．海外支援事業　－1

A．フィリピン国 JPCom-CARES 支援事業　－1

B．タイ国ノーンメック村コミュニティ支援事業　－7

C．海外プロジェクト助成事業　－12

1－2．国内支援事業「宮城県における連携・協働で取り組む福祉・防災学習推進事業」　－13

2．文化交流活動支援事業　－16

2－1．スタディツアー　－16

2－2．チャリティラン応援事業（フィリピン・しょうがい児・者自立生活支援事業）　－16

3．視察・研修・ワークショップなど　－16

3－1．研修事業　－16

3－2．国内 IDoCafé 事業　－17

4．パートナーシップ推進事業　－17

5．情報提供事業　－17

6．組織運営　－18

・ 2020 年度貸借対照表　－19

・ 2020 年度財産目録　－19

・ 2020 年度決算報告書 （損益計算書）　－20

・ 2021 年度事業計画書　－23

・ 2021 年度事業予算書　－27

2020年度コミュニティ・４・チルドレン（C4C）事業報告書
Community 4 Children
2020年6月1日～2021年5月31日

1. NGO支援事業

1－1. 海外支援事業

フィリピン国JPCom-CARESとタイ国ノーンメック村と連携し、運営・活動を支援してきました。またカンボジアのNGO/Khmer Community Developmentと協働で、ベトナム国境のカンボジア農村の子ども会活動および有機農業推進活動の支援も継続しています。

A.フィリピンJPCom-CARES(フィリピン国バギオ市、ベンゲット州カバヤン町)支援事業

JPCom-CARES(ジェイピーコム　ケアーズ)は、必要な公共サービスや社会資源の乏しい山岳部バギオ市、ハッピー・ハロー村(バギオ市内)、カバヤン町を拠点に、しょうがいのある子どもや青年層が地域で自立し尊厳のある暮らしを営める地域づくりに取り組んでいます。

2020年度も、コロナによる影響を大きく受けた中での活動となりました。リハビリテーションセンターでは、消毒マットの設置、指手消毒や検温の徹底、ゾーニングの設定、防護服やマスクの着用など、可能な限りの感染対策を講じました。感染状況によってコミュニティ隔離措置のレベルが変更され、その度に、様々な工夫や調整をしながら活動をすすめてきました。

特に、バギオ市から車で4時間ほど離れたカバヤン町においては、移動規制や交通手段の制限などで、2020年8月の訪問のみとなりました。計画していたほとんどの活動は中止せざるを得ませんでしたが、その間、保護者や青年たちとはSNS等を通じてコミュニケーションを絶やさず、繋がりを持ち続けています。

◆事業対象者数（人）

2020年6月～2021年5月の期間、下記の人数を対象に事業を行いました。

	継続	新規	退会/移転	計
バギオ市 / ハッピーハロー村/ ラ・トリニダッド町	95	11	30	76
カバヤン町	37	0	0	37

1.リハビリテーション＆保健プログラム

（１）リハビリテーションセンターSTAC5での理学療法、作業療法、特別支援教育

バギオ市にあるリハビリテーションセンター『STAC5(スタックファイブ):Stimulation & Therapeutic Activity Center 5』では、あらゆるしょうがいを持つ子ども・青年を対象に、一人ひとりに必要な理学療法、作業療法および特別支援教育をアセスメントしサポートを行っています。月～金曜日、8時～17時まで開所し、一人につき1回約60～90分のリハビリテーションを週に2回提供しています。

2020年度もコロナの影響による移動規制や子どもの外出制限といったコミュニティ隔離措置が続き、

一時的にセンターを閉鎖せざるを得ない期間がありました。また、感染の心配から自宅での療育を希望する保護者の声もあり、在宅でも療育を受けられるよう体制を整えました。

理学療法は、週 1～2 回のビデオ通話によるオンラインでのサポートを行いました。保護者が行っているマッサージの様子を画面越しに確認しながら、随時、アドバイスや技術指導を行いました。

作業療法・特別支援教育は、保護者に週 1 回センターを訪問してもらい、自宅で取り組めるワークシートの提供を続けました。在宅で療育するうえで困っていることや悩んでいることなど、保護者がストレスを抱え込まないようにヒアリングの時間も持ち、サポートを行いました。

保護者からは、「ステイホームにより療育に取り組むことが日々の習慣になり、子どもたちの成長を見ることができた」、「子どもが掃除・調理などの役割を担うようになった」、「家族の絆が深まった」といった声が聞かれました。

◆リハビリテーション利用登録者数（人）

期間	理学療法	作業療法　／　特別支援教育	計
2020/6～8	40	57	97
2020/9～11	42	53	95
2020/12～2021/2	42	57	99
2021/3～5	23	21	44

◆リハビリテーションサービス提供数（回）

理学療法	作業療法　／　特別支援教育	計
646	1,948	2,594

（２）家庭訪問

2020 年 9 月、オンラインで療育支援を行う子ども 6 人を対象に、健康状態や保護者のマッサージ技術と効果の確認などを目的に、理学療法士が家庭訪問を行いました。「一人で立ち上がることができるようになった」、「伝い歩きができるようになった」、「座位を保てる時間が長くなった」など、子どもたちの成長を確認することができました。

一方で、「手の動きや力加減がわからない」といった、自身でマッサージセラピーを行う難しさを訴える保護者もいたため、研修を実施する必要があることがわかりました。

（３）保護者への技術指導研修

在宅での療育を支援する中で、「行動の課題に対してどう対応したらいいのか？」、「マッサージの正しい手順を教えてほしい」など、療育方法に関する様々な悩みや不安の声が聞かれました。保護者が自信を持って子どもの療育に関われるよう、理学療法士と作業療法士による研修を行いました。当日は、感染対策を講じて小グループに分かれて実施しました。参加者からは、「他の保護者も同じような悩みや問題を抱えていることを知り、自分だけではないと安心した」、「それぞれの保護者の経験を聞いて参考になった」など、保護者が互いの経験から学び合う機会にもなりました。

【理学療法】実施日：2020 年 6 月 8 日、9 日、10 日、11 日　参加人数：18 人
実施日：2021 年 1 月 14 日、15 日、18 日　参加人数：15 人
【作業療法・特別支援教育】実施日：2021 年 1 月 12 日、13 日、14 日　参加人数：13 人

（4）医薬品の支給

ビタミン剤を必要とする子ども 33 人（バギオ市：22 人、カバヤン町：11 人）を対象に、抵抗力や免疫力を高めることを目的に、3 ヶ月ごとにビタミン剤の支給を行いました。特に、コロナの流行後は薬局でも品薄になり手に入りにくくなりました。パンデミックでステイホームが続く中、保護者は生活リズムや食事内容にも気を配り、子どもたちの体調管理に努めていました。

2.教育支援

（1）奨学生のモニタリング

コロナの影響による学校年度の開始・終了時期が変更となったため、年度内に奨学金の配布を行うことができませんでしたが、バギオ市 10 人、カバヤン町 14 人の奨学生の学習状況のモニタリングは継続して実施しました。

2020 年 9 月より授業がスタートしましたが、学校から支給された教材を使った自宅学習が 1 年間続きました。新たな学習方法に戸惑いを感じる子どもが多く、保護者や兄弟姉妹のサポートを得ながら学習に取り組んできました。家で過ごす時間が長くなったことを機に、調理や掃除などの生活スキルを高めていけるように、一日や一週間の予定を立て習慣化していくことなど、奨学生と保護者にアドバイスを行いました。

（2）学用品の支給

子どもたちの継続した学びをサポートすること、保護者の経済的な負担を軽減することを目的に、バギオ市 20 人、カバヤン町 14 人の就学中の子どもたちに学用品の支給を行いました。2020 年度は、オンライン授業や自宅学習に必要な学用品について先生方に確認を行い、コピー用紙などを多めに揃えて、マスクやフェイスシールドなど感染予防グッズも一緒に支給を行いました。

（3）奨学生の生計支援@バギオ市

2020 年 8 月 24 日、Pat in the Pot Painting Project(植木鉢ペインティングプロジェクト)に、保護者 7 人が参加しました。未就学の若者やしょうがい者を対象とする生計プロジェクトとして、Jenmen Management Inc.（建築業者）が様々な団体と取り組んでいるキャンペーンです。植木鉢にペイントを施し販売し、売り上げの半分が描き手に入る仕組みです。今回、子どもたちが外出規制の中にあったため、代わりに保護者が参加しました。

3.自立生活プログラム

（1）プログラムの実施・モニタリング・フォローアップ

バギオ市では、子どもたちの外出規制のため、センターでの個別プログラムは一時休止していました。2020 年 12 月頃より再開し、ソーシャルスキル・マナー・身だしなみ・家事・調理など、11 人の参加者一

人ひとりに合わせた個別プログラムを実施しました。

カバヤン町は、夏季休暇期間の 2021 年 4・5 月に１週間の合宿型の研修を予定していましたが、コロナの影響により実施することができませんでした。参加者 16 人に対しては、電話やメールを通してモニタリングとフォローアップを実施しました。外出制限期間中は、保護者の多くが農業に従事していることから子どもたちも畑仕事を手伝い、プログラムで習得したスキルを活かして家の手伝いを行って過ごしていました。また、ステイホームで人気が高まっている多肉植物やサボテンを栽培しネット販売して、少額ではありますが収入を得ている青年もいました。

４.保護者のエンパワメント

（１）生計向上プロジェクト：サバイバルガーデニング材料の提供

2020 年 3 月、必要な食糧の確保と野菜販売での副収入の獲得を目的に、希望する保護者 3 人を対象に軒先ガーデニングセットを提供しました。白菜・トマト・なす・オクラなどの野菜の種とポット、堆肥をセットに支給しました。スタッフによる家庭訪問も行い、野菜の植え付けや栽培方法などについて保護者の相談にも応じています。販売可能な量の収穫には至っていませんが、家庭で消費し食費を抑えることに繋がっています。

（２）ワークショップ・研修・行事

●保護者セミナー：起業家への一歩

日時：2020 年 9 月 10 日

参加者数：18 人

内容：起業や副収入向上を目指す保護者を対象に、起業マインドや低金利での融資の情報など、経営や起業に関する情報提供を行いました。

５.ネットワークづくり・社会資源の活用

（１）ネットワークづくり

●クリスマス＆年末の集い

日時：【バギオ市】2020 年 12 月 14 日、15 日、16 日　【ハッピ・ーハロー村】2020 年 12 月 22 日

参加人数：子ども・保護者：56 人、地域パートナー：12 人

内容：今年は、３日間に分けて少人数の 6 グループに分かれて、時間を短縮して実施しました。子どもや保護者が顔を合わせ、クリスマスをともに祝うことができ、参加者一同とても喜んでいました。協力団体や村の役員の方々も参加してくださり、改めて繋がりを確認する機会となりました。

●Walk in the Park

日時：2021 年 3 月 19 日

場所：バギオ市内の公園（Botanical Garden）

参加者数：子ども・保護者：11 人

内容：世界ダウン症の日に合わせ、子どもたちや保護者とともにチラシ配布を行い、しょうがいへの理解

や啓発活動を行ないました。

（２）社会資源の活用

●STAC5 記念行事：保健キットの提供

日時：2020 年 11 月（随時）

対象人数：51 人

協力：PCEC-BSN Batch 93, ENT-Otorhinolaryngology Head and Neck Surgery-BGHMC

内容：手指消毒用のアルコール、フェイスシールド、フェイスマスク、薬用石鹸、口腔衛生用品、タオル、メンタルヘルスに関する資料をセットにした「保健キット」の提供を行いました。新型コロナウイルス感染防止のため、大人数での集まりは行わず、リハビリテーションの来所時や小グループに分けて配布しました。また、社会福祉開発局で申請できる経済支援、教育や医療費などの支援について情報提供を行いました。

●支援金（給付金）のコーディネート

時期：2020 年 6～11 月、2021 年 5 月

対象者：56 人

協力：社会福祉開発局

内容：療育支援を受けている経済的なサポートが必要な子どもを対象に、2,000～10,000 ペソの財政支援の申請手続きのコーディネートを行いました。保護者への情報提供と必要な申請書類の準備などのサポートを行いました。

●解熱鎮痛剤の配布

日時：2020 年 9 月 15 日～29 日

対象人数：11 人

内容：雨期が始まり気温が低下する 9 月は、風邪や熱を出す子どもたちが多く、またロナの影響により、医薬品の価格も上昇していたため、解熱鎮痛剤の配布を行いました。

●フェイスマスク・フェイスシールドの配布

日時：2020 年 9 月 14 日～23 日

対象人数：15 家庭

協力：ラ・トリニダッド町自治体

内容：家庭内感染予防のため、連携する自治体から寄付いただいたフェイスシールドとマスクを必要とするご家庭に配布しました。（各家庭につき、フェイスシールド 1 枚、マスク 5 枚）

●食料パック・フェイスシールド・サプリメントの配布

日時：2020 年 10 月 6 日～9 日

対象人数：47 家庭
協力：コルディリエラ行政区社会福祉開発局議員 Lourdes Tabanda さん
内容：米 5 キロ、ツナ缶 4 つ、コンビーフ缶 4 つ、イワシ缶 2 つ、インスタントコーヒー5 袋、粉末栄養ドリンク 5 袋の食糧支援パックを、47 家庭に 2 袋ずつ計 94 パックの食糧支援を提供くださいました。また、家庭内での感染防止のためのフェイスシールド・マスク、栄養補助としてのカルシウムサプリメントを提供くださいました。

●食料パックの配布
日時：2021 年 2 月 26 日
対象人数：10 家庭
協力：Magsaysay 高校の生徒会（クラブ）
内容：砂糖 1 キロ、小麦粉 1 キロ、粉ミルク 5 袋、粉末ドリンク 6 袋、塩、クッキーなどの食糧支援パックを提供くださいました。

●コミュニティパントリーの設置
　コロナ禍の中、様々な個人や連携する団体が、食料品や感染予防グッズ、医薬品等を寄付くださいました。センター内にコミュニティパントリーを設置し、必要とする保護者やご家族に持ち帰ってもらいました。

（３）ファンドレイジング活動
自主財源の獲得のため、下記の取り組みを実施しました。
●募金箱の設置
　2020 年度は、募金箱を設置いただいているレストランやカフェなどが休業、営業時間の短縮、来客の減少などのコロナの影響を受けましたが、募金額は 2019 年度より増え、13,284.35 ペソ（約 3 万円）が集まりました。

●観葉植物＆植木鉢販売プロジェクト
　現地では、自宅で過ごす時間を楽しもうと、観葉植物や家庭菜園を楽しむ人が増えています。観葉植物の人気とともに、販売価格も上昇しています。保護者と JPCom-CARES が協力し、観葉植物やポット苗の販売を始めました。売り上げの 8 割を保護者の副収入として、残り 2 割を JPCom-CARES の活動資金とし、今年度は、7,207 ペソ（約 16,000 円）の活動資金を得ることができました。

【成果と課題】
　2020 年度は、コロナ収束の見通しが立たない中での活動となりました。しょうがいのある子どもたちが尊厳を持って自立した生活を送っていける地域の基盤づくりに向けて、支援者や関係者を対象とした研修・セミナーの開催など、積極的に地域にアウトリーチをしていく計画を立てていましたが、中止せざるを得ない状況でした。しかし、在宅療育の支援を通して、家庭や地域を訪問する機会が生まれ、一歩あ

ゆみを進めることができました。また、コロナ禍でも安心して子どもたちや保護者が過ごせるようにと、食料品や医薬品、感染予防備品など、多数の資源の提供や寄付をいただきました。これまで様々なNGOや自治体と協働し大切にネットワークを育んできましたが、今年度は、そういった繋がりをより強く再確認する一年となりました。

B. タイ国ノーンメック村コミュニティ支援事業

コンケン県ノーンメック村において、子どもを見守ることができるコミュニティ作りを応援する様々な事業を展開しています。事業は、有機農業普及と伝統文化の復興を柱に自然と共存しながら収入の向上を図ります。まずは大人たちが自分たちのコミュニティの中で絆を強化し、農民としての生き方に自信を持ち、経済的にも自立できるようになることが、子どもたちを健全に育てる基盤となります。そしてコミュニティのために働く若者を育てることへとつながります。

2020 年度も引き続き、コロナ感染症拡大の影響により、都市のロックダウン、休校、長距離移動の制限などが続きました。2021 年に入りワクチン接種も進んでいますが、全国に普及するにはまだまだ時間がかかるようです。それでもこれ以上経済活動を止められないという政府は、外国人観光客の入国を増やし、観光業を再興しようとしています。そしてまた各地でクラスターが発生し、この状況の収束は見えません。

コロナの状況に対する政府の対応は、目まぐるしく変化し、県境を越えての移動や集会の禁止と緩和を繰り返し、事業を中止したり再開したりといった状況が続きました。2020 年は、本事業でも「密」を避けるため村内外での研修事業の多くが中止となりました。村内での集まりもほとんどなくなり、子どもの居場所づくり事業や村内の活動も少なくなりました。一方で、コロナによる休業で仕事を失った村人たちが帰村し、家族とともに農業を始めるようになりました。中には有機農業に関心を持ち、スタッフに有機農業についての知識を聞いてくる人も増え、田畑での個別指導の機会は多くなりました。

１．有機農業の普及

◆子どもとコミュニティのための有機農業実験農場での稲作

@アランヤー実験農場（村人から無償で田んぼを借りています）

参加者；ノーンメック村と周辺村の大人、青少年約 40 人（田植え時）

前年度は干ばつに見舞われ、収穫することができませんでした。2020 年も雨の降り始めが遅かったものの何とか田んぼに水を引き、隣村から種もみをいただき田植えをしました。干ばつの不安もありましたが、遅い雨が降り出し、何とか収穫することが出来ました。

『結』で田植えと稲刈りを行うことは、自分たちのルーツ文化を忘れないためにも重要です。『結』を復活させて 5 年目を迎えた 2020 年は、少し参加者が減りました。その原因として、コロナによる「密」の回避や、雨の降り始めが遅れた影響で村人たちは自分の田畑の作業に忙しくなったことなどがあげられます。参加したいが参加できないことを告げに来てくれる村人もいて、『結』は確実に村人の文化として根付いたようです。

これまで干ばつ、コロナ、稲枯病の流行など様々な困難を乗り越えて、化学肥料や農薬を使わない有機農業を実践しています。乾季には、豆類などの緑肥を鋤きこむことによって窒素が増加する土地改良を

続けています。その成果を見て、自分でも化学肥料を使わずに農業を始める人が増えてきたと思われます。

日時/参加人数	活動
6 月 13、14、15 日、 7 月 22，27 日、8 月 5 日/5－8 人	田植えの準備；雑草刈り、耕起、苗床作り
8 月 7， 8 日/青少年 7 人	苗準備
8 月 9 日/37 人（大人 26、青少年 11＝男 21 女 16）	『結』田植え
8 月 20，23、9 月 5，7，16 日/4－5 人	稲や田んぼの状態を観察
9 月 24 日/5 人	液肥、堆肥投入
9 月 28，10 月 21、26 日/4 人	雑草抜き、水田の水の調節
11 月 2，4，13，21 日/5 人	稲刈り準備、水田の水の調節、雑草抜き
11 月 22 日/33 人(大人 21 青少年 12＝男 20 女 13)	『結』稲刈り
11 月 26，27 日/10 人	稲の運搬、脱穀、米蔵へ
12 月 21 日/4 人	田起こし、土地改良のため
4 月 21 日/4 人	田起こし、鋤
5 月 14，15，18 日/8 人	雑草刈り、直播

◆自立のための農業普及活動

新たに自給するために有機農業を始めようとしているノーンメック村および隣村の住民(11 人)の田畑を訪問し、求めに応じて有機農業の方法を教え、有機農業を続けられるよう実際に行っている方法を指導しています。

コロナの影響により、対面で学ぶことが難しくなりましたが、個別に農地に赴き、現場で指導すると人々はより一層安全な食を提供する有機農業に関心を持ってくれます。当面は、すでに有機農業を始めている先輩が、これから始めようとしている人々の相談にのる形で個別指導を続けていく予定です。

2. コミュニティ文化の継承

◆寺院やコミュニティでの行事参加@ノーンメック村寺院、ノーンメック村内

日時：2020 年 9 月 17，25 日、10 月 2 日、12 月 3 日、2021 年 1 月 9 日、2 月 7 日、3 月 6，20 日、4 月 20，21、25 日、5 月 10 日

コロナ感染症拡大のため、全体的に集合行事が減少しましたが、雨安居期の仏日、村人の葬式、仏教行事、子どもの日の行事、水かけ儀礼などの際、スタッフが子どもたちを連れ、飲み物を差し入れたり、行事のお手伝いをしました。有機農業実践農場で収穫した米を寺院に寄進し、食べる米がない世帯に安価で売り、その収益を寺の維持費としました。多くの人が集まることはできませんが、タイ正月には個別に村落議会の委員たちを訪問し、健康や長寿を願う水かけ儀礼を行いました。

◆コミュニティ青年ボランティア（子どもの居場所づくり）
参加者：子どもと保護者約 50 人
場所：ノーンメック村ローカルスタッフの家

放課後や週末の子どもたちの居場所として、いつでも好きな時に子どもたちは遊びに来てよい場所としてスタッフの家と敷地を開放してきました。しかし、コロナの影響によって、集まることができなくなり、12 月になるまで活動を控えていました。後半期には状況を見ながら、週末の活動を村人や青少年ボランティアの協力を得て再開しました。

子どもたち自身が意見を出し合って活動内容を決める過程を大切にしています。週末に、ピザやお菓子作り、お絵かき、英会話などをボランティアとともに楽しく学んでいます。

日時/参加人数	活動
12 月 19 日/子ども 26 人、保護者 21 人	自然素材から洗剤作り、一緒に料理作り
12 月 26 日/子ども 7 人	簡単英会話教室、化学実験（PH について）、一緒に料理作り、音楽、
12 月 26 日/青年 13 人	スポーツコートの看板の色の塗り替え
2 月 6 日/子ども 6 人	簡単英会話、化学実験（PH について）、アート教室
2 月 13 日/中 3 までの子ども 15 人	ピザづくり実践
2 月 20 日/子ども 6 人	簡単英会話、アート教室、算数、タイ語・ラオ語の話し方
2 月 27 日/中 3 までの子ども 16 人	ドーナツ作り
3 月 13 日/子ども 7 人	自由に読み書き、お絵かき、遊び、一緒に料理作り
3 月 20 日/子ども 9 人、ボランティア 3 人	自由に読み書き、お絵かき、遊び。簡単英会話。一緒にお菓子（ローティー）作り
5 月 31 日/子ども 10 人、保護者 3 人	自由に読み書き、お絵かき、遊び。

3. 森林保護・保全、有効利用活動

◆植林@ノーンメック村公共地

森を愛する心を育て、自然資源を適切に利用するため､そして将来も森林を利用することができるように森林保護活動を続けています。3 年前に私有地と村の公共地の境界を明らかにし、柵を建てて、村人が苗木を植え、多様な樹木を含む森を育て始めました。そして年に一度、雨季の始めに無償で助け合う『結』の伝統を復活させ、村人と一緒に植林しています。

2000 年度はコロナ感染症の影響で学校が長期間休みになったため、植林には、大人に加えて子どもたちも多く参加し、また僧侶も参加してくれました。

前年度から、自分たちの田畑に植えて家族林を作ることも勧めています。苗木を増やし、それらを自分の土地にも植えた村人が 2000 年には 18 人、2021 年には 29 人に達しました。

日時	参加者	活動
6 月 21 日	青年 3 人	サコンナコン県から苗木を運搬
6 月 24 日	村人 11 人	村人とともに公共林の苗木の状態を視察
6 月 28 日	村人 50 人	下草伐採、土地の整備、植林
8 月 5 日	村人 8 人	苗木の成長の状態視察
3 月 25 日	スタッフ・村人 5 人	公共林の視察
4 月 21 日	スタッフ 2 人	植林すべき場所の確認
4 月 25 日	青年 3 人	下草、雑草刈り
4 月 27 日	スタッフ 2 人	サコンナコン県から苗木を運搬
5 月 28、31 日	村人 26 人（大人 17 子ども 9）	土地に堆肥を投入

◆青少年によるコミュニティ内植林のための種苗作りと収入向上

村の青年が子どもたちと一緒に学びながら森で採集した種苗をビニールハウスで育て、村の生活に役立ててきました。苗木ポットを販売することで、参加した子どもたちの副収入向上、村人たちの家庭林や公共林の増加に貢献してきました。しかし 2000 年は子どもたちとの活動が制限されたため、スタッフの家で多少の種苗を育てました。一方、コロナの影響で失業した人々が帰村し農業を始め、自分の土地に苗木を植えたい人に種苗ポットを配布しました。

日時	参加者	活動
6 月 7－8 日	青年 3 人	種苗を増やし販売するコミュニティ視察・経験交流＠カラシン県カオウォン郡、サコンナコン県コークシースパン郡
6 月 19 日	村人 8 人	種苗ハウスを作り、森から採集した苗などを植える
7 月 19 日	青年 3 人	種苗を増やし販売するコミュニティ視察・経験交流＠サコンナコン県クットバーク郡インペーンセンター

◆水利管理研修

水不足はこの地方共通の課題です。2020 年 3 月より定期的に起こる干ばつに対処するため、地下水をうまく管理・利用するための視察・研修を行ってきました。しかしコロナの影響で村外での研修はほとんど中止になりました。

2021 年に入ってコロナ自粛が少し緩和されてから、水利管理視察・研修への参加者を募ったところ、周辺の村の農民からの参加希望がありました。講師の農民の豊かな農園を見て、より一層関心が高まったようでした。どのように地下水を引き、井戸や地下の水源を管理しているのかについて説明を受けて、水利管理について学んだあと、自分たちの手で実践しました。

今後もノーンメック村の有機実践農場に貯水モデルを構築する取り組みは続きます。

日時	参加者	場所	活動
7 月 26 日	ノーンメック村	ノーンメック村	これまでの研修で学んだことを復習す

	住民 8 人		ると同時に、村内でまとめ、他の住民に伝えた
7 月 27 日	ノーンメック村住民 9 人	ノーンメック村有機実践農場	実際に田畑で地下水の流れを変え、貯水できるかどうかを実践してみた
9 月 18－20 日	近隣村住民 15 人	ノーンメック村有機実践農場	講師を招聘し、関心がある近隣村の住民を対象に、うまく土を掘って地下水の流れを変えれば、水源を確保できることを実践してみせた
3 月 13－14 日	ノーンメック村および近隣村の住民 21 人	チャイヤプーム県ノンブアデーン郡ナーンデーット行政区ワントータン村	川もない山の上にある講師の農園を訪問し、地下水を利用した農業を視察した。

4.　健康向上プロジェクト

日時 : 2020 年 11 月 3～4 日、2021 年 3 月 18 日＠ノーンメック村
参加者：ノーンメック村と隣村の住民約 20 人

有機農業に関する新プロジェクトとして、安全な食や生活習慣に気を付けて健康を増進させる研修を始めました。地元や村外から薬草師や伝統治療師を講師として招聘し、タイの伝統治療知識（地元で長年にわたって伝えられ、お金をかけることなく、身近な食材を利用して健康を増進させることができる知識）、身近な薬草、医薬同源の原理、足湯や手湯によるデトックス、整体などを学びました。参加者の多くは、自分の健康に不安がある年配女性で、普段食べているものの効能を熱心に聞いていました。食べ方、料理の仕方によっても自分の健康に対する効果が異なります。例えば米にも多くの種類があり、それぞれ特徴があります。また薬草を使った足湯や手湯はリラックス効果があります。みんなで薬草からジュースやスープを作って試飲・試食しました。薬草であっても料理の仕方によっては美味しくなることがわかりました。

5. 青少年のための職業訓練、青少年ネットワーク形成・交流

コロナ感染症拡大の影響により、村内外における青少年研修事業が実施できませんでした。

6. 牛銀行プロジェクト

2013 年から青少年の就労支援基金の設立を目指して始めた牛銀行プロジェクトも 7 年目を迎えました。前年度の干ばつ、次にコロナ感染症の拡大、口蹄疫の流行などの影響で、牛銀行委員会も集会の開催や牛の売買による利益の分配も行うことができませんでした。また不妊牛の交換や、流行病のワクチン接種などの経費がかさみました。様々な困難を乗り越え、委員会で改めて利益の分配について相談した結果、限られた人数の子どもへの奨学金支給ではなく、少額でもいいから自分たちの活動に参加や支援する家族の子どもに分配しようということになり、500 バ

一ツ（約 1500 円）を 28 人の子ども（幼稚園から中三まで）に支給しました。

2019 年度から、干ばつのため 6 頭の母牛を一人の飼育者に任せていましたが、水不足の状況が改善したため、牛銀行の元の形(3 頭ずつ 2 人の飼育者)に戻そうと、コミュニティのために協働で牛を育てる責任感を持つ人であることを条件に周辺の村も対象として新たに飼育者を募集し始めました。

【成果と課題】

2020 年度は、コロナウイルス感染症拡大のため事業の中止や延期が増えました。一時は、大都市におけるロックダウンによってウイルス陽性者数も低く抑えられていましたが、学校も長期間の休校やオンライン授業を続け、子どもたちの学業の遅れや精神面でのストレスが心配されます。子どもの居場所として開放しているスタッフの家にもなかなか集まることができず、状況を見ながらできる限りの事業を継続しました。村内外で多くの人が集まる研修や集会をもつことは困難でしたが、村内では町で失業して帰村した者、コロナを回避するために農業の拠点を集落外の田畑に移動させる者たちを対象に有機農業の個別相談を始め、多くの人に関心をもってもらいました。

当面、コロナの状況がどうなるのかが予測できないため、手探りで事業を進めていくしかありません。多くの課題を抱えましたが、良い点として、有機農業への関心の高さと協働することへの希求の高まりがあります。「状況がよくなったら、これをこうしよう」「一緒にしよう」「また会えるよね」などの言葉を掛け合いながら、村人たちは今の状況に適応し、前向きに協働していこうとしています。牛銀行の運営もコミュニティの子どもたちの将来を考えて時間をかけて話し合って進めています。

こうした良い点を今後発展させていくために、小規模グループで活動を広げていくことを計画しています。長期的な視点で、人と人とのつながりを大切にしながら、これまで努力して広げてきた活動を止めないような繊細な対応が求められます。

C.海外プロジェクト助成事業

カンボジアの NGO である Khmer Community Development(以下、KCD)を通じて、ベトナム国境沿いの村々の子ども会活動（ピース・クラブ）と有機農業推進事業を支援しています。しかしながらコロナ感染症拡大の影響で、プノンペンのスタッフが事業対象地に行くことができず、事業のほとんどは中止や延期となりました。学校も 1 年以上休みになり、政府はオンライン授業を推奨していますが、農村では教師も子どももインターネット環境が整っておらず、子どもたちの学業は遅れています。子ども会のメンバーが年少の子どもたちに識字を教える青空教室活動も「密」を恐れてほとんど開催されなくなりました。

事業対象地であるプレックチュレイ村は、ベトナム国境と川で接しています。しかし 2020 年春からコロナの影響で感染拡大を防ぐために国境を封鎖し、人々はベトナム側の市場に行けなくなりました。また首都プノンペンへの長距離移動もほとんど許可されません。医療施設は地元になく、もし重病にでもなれば治療を受けることができません。

そのような困難な状況下で、スタッフは何とか村の状況を把握しようと、子ども会や村人たちに電話や SNS で連絡を取り、日常生活についてインタビュー調査を行い、現時点での課題把握に努めてきました。

子どもに関する課題は、学業の遅れです。特に高校進学、大学進学を考えている子どもたちは学業の遅れを非常に不安に思っていました。そこでスタッフは、なるべく少人数で自習グループを作り、お互い助

け合いながら勉強をすることを提案し、必要ならば参考資料もコピーして送りました。年少の子どもに関しては、諸機関の協力により無料で低学年用クメール語絵本をダウンロードできるオンライン・サイトを設置し、子ども会メンバーや家族が小さい子どもたちのために利用できるようにしました。

村人の生活に関しては、遠出ができず、地域内での自給を強いられたため、家族の状況に応じて、果樹や野菜の苗を配布しました。また大きな水瓶を持つ家には、そこで魚を養殖するよう稚魚を配布し指導しました。

その他、スタッフたちは、他の地域の子ども会やNGOとオンラインによる情報交換・研修会を開催し、地域の状況把握に努め、今後の計画に活かそうとしています。

【成果と課題】

コロナ感染症拡大の影響によって、2020年度の事業は大幅に見直さねばなりませんでした。有機農業に関する研修、青少年交流会などの人が集まる活動が全くできませんでした。このような状況がいつまで続くかもわからず、村人たちも不安に感じていました。コロナの影響で国境が閉鎖されたため、これまでのようにベトナム側にある市場に頼ることができなくなり農産物などの売買にも困るようになりました。また出稼ぎにも行きにくくなり、村人たちはステイホームをして、静かにこの災禍を過ごそうとしていますが、どこまで蓄えが持つのか、自給自足でどこまで耐えられるのかわかりません。

そのような状況下で、スタッフはできる限り村人や子どもたちを励まし、寄り添うために頻繁に電話やSNSを利用していました。しかしすべての人がインターネットを十分に使える環境にあるわけではありません。

プノンペンにあるNGO事務所とベトナム国境沿いにある村との間のコミュニケーション手段を確立し、これまで以上にインターネット等の通信状況を改善することが喫緊の課題だと言えるでしょう。

1－2. 国内支援事業「宮城県における連携・協働で取り組む福祉・防災学習推進事業」

『東日本大震災で甚大な被害を被った宮城県において、各地域全体の福祉力・防災力を高めるとともに、普段から、住民一人ひとりの命と暮らしを守ることを目指す。』

このことを実現するために、宮城県内で取り組まれる児童・学生・青年層が主体的に参画する福祉・防災学習の実施について、福祉・防災学習を実施・検討・計画されている地元の社会福祉協議会・NPO・学校等と連携・協働し、次のようなことに取り組みました。

特に2020年度においては、東日本大震災の経験を教訓として今後につないでいくための防災ゲームの開発や県内で取り組まれる福祉・防災学習実践支援などを通じて、東日本大震災から10年という節目に向けた震災の教訓を伝える防災学習ツールの開発や、福祉・防災学習推進の担い手育成・基盤づくりを目指しました。

１、福祉・防災学習プログラム・ツール研究開発事業

● 東日本大震災の経験を教訓としてつないでいく防災ゲームの開発

東日本大震災から 10 年の 2021 年完成を目指し、震災の風化が進む中、震災発生直後から県内各地でおこった助け合い活動を「あのときはよかった」で終わらせず今後に教訓としてつなげていく防災ゲームを作成しています。

2018 年度に県内外の学生・若者・親子・防災専門家とともに企画会議を立ち上げ、2020 年度は 10 回（第 8 回～17 回）の企画会議を開催しました（実施日…6/21、7/18、8/12、9/27、10/17、11/23、12/5、1/17、2/20、4/29）。ボードゲームショップで様々なゲームを体験しアイディアをふくらませたりしながらゲームの素案を固め、共助（助け合い）の大切さだけでなく、自助（自身や家庭の備え）の大切さを伝えられるゲームも作れないかという意見も出て、２種類のゲームを作成することになりました。

素案からメンバーとアイディアを出し合いゲームを形作っていき、3 月 20 日には、全国各地から 11 組にご参加いただき、オンラインでのモニター体験会を開催することができました。体験会でいただいたアイディアも取り入れながら、ゲームの完成に向けて作業を進めています。

２、福祉・防災学習実践支援事業

県内で実施される福祉・防災学習事業について、3 つの地域で実践支援に取り組みました。

● 地域指定福祉教育推進事業（2019 年度～継続）

主催：岩沼市社会福祉協議会（宮城県社会福祉協議会による指定事業）

「学校と地域をつなぎ、地域全体で福祉学習を推進する」ことをテーマに、市内の当事者団体と連携した福祉学習プログラムと、プログラムを掲載した冊子の作成に取り組むことになりました。2020 年度はどのようなことを目指したプログラム作りに取り組むのか、実施形態、スケジューリング、冊子のイメージ等について担当者と打ち合わせを行い、当事者団体との打ち合わせを始めました。(HumanBeing はアドバイザーを担当）（年間訪問回数…９回）

● おおさき福祉学習推進事業（2016 年度～継続）

主催：大崎市社会福祉協議会

地域共生社会の実現に向けた、地域福祉推進の人材育成を目的とした福祉学習事業を実施。2020 年度は本所・7 支所の福祉学習担当職員とともに、前年度に話し合った「大崎社協がすすめる福祉学習のイメージ」をもとにした「ふくしの学びハンドブック」の作成に取り組みました。（HumanBeing はアドバイザーを担当）（年間訪問・オンライン打ち合わせ回数…16 回）

● 2020/12/5 「ボランティア入門講座②災害時のボランティア活動について」

主催：東松島市社会福祉協議会

会場：東松島市蔵しっくパーク ふれ愛市民活動プラザ

参加者：12 人

内容：災害ボランティア活動について、心構えや基礎知識、情報収集方法等

３、福祉・防災学習推進のためのネットワーク構築事業

県内の関係機関と情報交換・相談対応等を行い、福祉・防災学習にかかわる情報収集・提供、ネットワーク構築に取り組みました。

2020 年度中は新型コロナウイルスがどのような病気かもわからず、事業も中止せざるを得ない状況があったと思いますが、2021 年度は「何とか工夫してできないか」「どうすればできるか」を考え始める方も多いと考え、5 月 7 日にオンライン情報交換会「今年はどうする!?福祉学習・ボランティア体験」を開催しました。全国各地から想定を大きく超える 62 の社会福祉協議会にご参加いただき、同じように悩みを抱えている方どうしの意見交換・情報交換の場を提供することができました。

４、普及啓発のための情報発信事業

宮城での実践を活かし、県外でのアドバイザー業務や、研修会の開催に協力しました。

・2020/9/30、10/22、2021/2/4　板柳町社会福祉協議会・中泊町社会福祉協議会「地域における福祉学習実践事業」（青森県社会福祉協議会指定事業）

・2020/11/11　群馬県社会福祉協議会「福祉教育セミナー」

・2020/3/16　那覇市石嶺小学校区まちづくり協議会「いしんみ防災勉強会」

【成果と課題】

防災ゲームの開発にあたってはたくさんの方のお力添えで完成間近までたどり着くことができました。企画会議メンバーの協力だけでなく、モニター体験会で全国各地からお申し込みをいただき、多くのご意見をいただけたことも大変励みになりました。

福祉・防災学習実践支援事業は新型コロナ禍の影響もあり件数としては例年より大幅減少となりましたが、どのような状況にあっても福祉・防災学習実践の目指す本質は変わらないことを再確認し、「やれる・やれない」の二択で考えるのではなく「（目指す目的・目標のために）どう取り組めるか」が大切であることを考え続けた１年でした。

5 月 7 日に開催したオンライン情報交換会ではオンラインでの事業開催という新しい取り組みに方もチャレンジできましたし、同じように悩み、前に進もうとされているかたが全国にいることも再確認できました。

また、今年で東日本大震災から 10 年が経過しました。3 月 11 日前後は多くの報道が流れましたが、それ以降はぱったりとやんでいます。沿岸部での復旧工事や、復興に向けた被災者支援活動や地域づくり活動は未だ続いているものの、時間の経過による子どもたちの成長・担い手の変化・県外からの転入、これまで復興を目指し支援活動や地域づくりを担ってきた方々の世代交代や県外への転出等に伴って、記憶を教訓としてどのように新しい方々や次世代を担う若者につないでいくかが懸念されます。

新型コロナウイルスの影響で 2020 年度は事業規模も大幅に縮小してしまいましたが、まもなく完成する防災ゲームの完成にともない体験会を開くことで、さまざまな層に向けて、東日本大震災について発信するひとつのきっかけにしていきたいとも考えています。また地域共生社会の実現に向けた福祉学習

の推進に取り組むことで、平時からの支え合いの大切さをより根付かせられるようにと考えています。
今後も県内各地の実践者のニーズを聞きながら、学習者に合った身近で取り組みやすい学習ツールを展開していき、防災・福祉の意識・実践力の向上や、担い手育成に取り組んでいきたいと考えています。

2. 文化交流活動支援事業

2－1. スタディツアー

現地に行くスタディツアーはコロナにより催行できませんでした。その代わりにオンライン交流会を行いました。

◆「タイ・ノーンメック村とつなぐ Zoom 交流会」『田植え』編

日時：2020 年 8 月 8 日 14：00～15：00

参加者：12 人

これまでタイ・ノーンメック村にスタディツアーで行ったことがある人を対象に、有機農業実践農場で『結』の伝統に従って行われている田植えに合わせてオンライン交流会を企画しました。現在のノーンメック村の現状を見ながら、事業の進捗状況などを現場スタッフに聞きました。日本人参加者は、「なつかしかった、また会えてうれしい」、タイの村人は、「コロナで直接会えないけれど、こうやってインターネットで会えるのもいい。元気な顔を見られてうれしい」と久しぶりの再会を喜び合いました。

◆「稲刈りだ！収穫を祝おう！タイ・ノーンメック村とつながる Zoom 交流会」『稲刈り』編

日時：2020 年 11 月 22 日 14：00～15：00

参加者：8 人

8 月にオンラインでタイの農場とつながり、田植えを応援しました。そしてその稲が順調に育ったので収穫を一緒に祝おうと、ノーンメック村に行ったことのある人を対象にオンライン交流会を企画しました。日本人参加者とタイの村人が再会を喜ぶとともに、参加者から事業に関する活発な質問がでました。

2－2. チャリティラン応援事業（フィリピン・しょうがい児・者自立生活支援事業）

コロナ感染症拡大の影響により実施することができませんでした。

3. 視察・研修・ワークショップ事業

3－1. 研修事業

1. タイにおけるカンボジア人有機農業研修(オンライン)

日時：第一回 2 月 25 日 11：00～14：00、第二回 3 月 17 日 11：30～14：00、第三回 4 月 28 日 11：30～14：00、第四回 5 月 19 日 16：00～18：00（いずれも 2021 年）

毎年、8 月にカンボジア人農民をタイに招聘して有機農業実践者から学んでもらう研修を行っていましたが、2020 年度はコロナ感染症拡大の影響により実施することができませんでしたが、タイとカンボジア間のスタッフ、農民、青少年の交流を何らかの形で継続していく道はないかと、両国の現地団体スタッフ、日本 C4C 加藤が話し合ったところ、カンボジア人から「草木染に特化して、その技術や製品化の方法を教えてほしい」との要望がありました。そこでまずプノンペン事務所でスタッフ対象の草木染研修を行い、のちに村の青少年や農民に教えることができるレベルまで学んでもらうことを第一の目的として始めました。

『カンボジア・タイ草木染オンライン研修・交流会』として月 1 回のペースで、実際に鍋で布を染めながら学び合い、経験交流をしています。初回、タイ人スタッフ・トゥックとタイ・ノーンメック村の若者が資料を作り、映像で染めやデザイン絞りを実演した後、カンボジア人スタッフも実際に体験しました。また事務所で草木染を体験するだけでなく、実際プノンペン郊外の森へ行き、植物に詳しい農民に聞きながら草木染に適した材料を採取したり、タイでインターネットを通じた草木染製品の販売を行う若者にインタビューしたり、染めの技術だけでなく、製品化やマーケッティングも視野に入れて学びを続けています。

またフィールドで子どもや若者と協働する楽しさや難しさを、タイとカンボジアの双方のスタッフたちが経験を共有する時間を持ち、スタッフ交流の場としても有意義でした。

3―2.　国内 IDoCafé（あい・どぅ・かふぇ）事業

開催しませんでした。

4. パートナーシップ推進事業

4－1. 調査事業

（1）宮城県における地域一体で取り組む福祉・防災学習推進事業のための調査

調査実施者：Human Being　菅原清香会員

宮城県および周辺県等において、国内事業「福祉・防災学習推進事業」の実施主体を訪問し、ヒヤリング調査、研究、事業実施に関する意見交換を行いました。C4C の各事業と当事業との調整も行いました。

5. 情報提供事業

5－1. ホームページ、ブログ、Facebook による情報発信

今年度は、Ｃ４Ｃだよりの発行に加え、ホームページ内に「活動ブログ」の開設、Ｃ４Ｃ Youtube チャンネルの開設を行いました。

5－2. イベント参加

◆ワン・ワールド・フェスティバル

これまで毎年、活動紹介ブースを出展して参加していましたが、コロナの影響により、2 月 1－21 日までオンラインで開催することになりました。それに伴い、当法人は活動紹介動画を製作する形式で参加しました。

6. 組織運営

◆2020 年度会員について

2020 年度会員・寄付者

人数の変動

		2018 年度	2019 年度	2020 年度
正会員数	個人	13	15	12
	団体	2	0	0
賛助会員数	個人	23	23	15
	団体	0	1	0
使途指定寄付	指定寄付(宮城防災)	1	1	1
	フィリピン・奨学金	1	1	1
	フィリピン・ラン	18	18	0
	フィリピン・ラン・スポンサー	7	8	0
一般寄付		8	7	6

総会員数は、2019 年度正会員・賛助会員(個人・団体)合わせて、39 人だったものが、2020 年度は 27 人でした。減少した理由は、コロナ感染症拡大のためにスタディツアーを催行することができず、また日本国内でも広報やイベント参加などがなかなか行えず、新しい会員を開拓する機会だけでなく、これまでの会員の方々への情報発信が不十分であったためと考えられます。

2020 年度　貸借対照表 (2021 年 5 月 31 日現在)

一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン　本来事業の会計　(円)

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金	5,413	未払金	251,080
普通預金	243,969	預り金	2,914
流動資産合計	249,382	流動負債合計	253,994
固定資産		固定負債	
什器備品	1	固定負債合計	0
固定資産合計	1	負債合計	253,994
		正味財産の部	
		前期繰越正味財産	103,307
		当期正味財産増減額	-107,918
		正味財産合計	-4,611
資産合計	249,383	負債及び正味財産合計	249,383

2020 年度　本来事業の会計　財産目録(2021 年 5 月 31 日現在)

一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン

科　目	摘　要	金　額(円)		
資産の部				
流動資産				
現金		5,413		
普通預金		243,969		
--三井住友銀行		15,248		
--ゆうちょ銀行総合口座		63,721		
--ゆうちょ銀行振替口座		165,000		
流動資産合計			249,382	
固定資産				
什器備品		1		
固定資産合計			1	
資産合計				249,383
負債の部				
流動負債				
未払金		251,080		
預り金		2,914		
流動負債合計			253,994	
固定負債				
固定負債合計			0	
負債合計				253,994
正味財産合計				-4,611

2020 年度　損益計算書（予算対比）
2020 年 06 月 01 日～2021 年 05 月 31 日（配賦）
一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン　本来事業の会計

（収入の部）　（円）

科目	予算額	決算額	予算残額
1. 会費収入			
正会員受取会費	300,000	120,000	180,000
賛助会員受取会費	300,000	75,000	225,000
2. 寄付金			
一般寄付	12,000,000	11,705,000	295,000
使途指定寄付	0	133,557	-133,557
3. 事業収入			
フィリピンスタディツアー事業収入	400,000	0	400,000
タイスタディツアー事業収入	0	0	0
4. 民間助成金	1,000,000	0	1,000,000
5. 雑収益			
受取利息	0	36	-36
当期収入合計（A）	14,000,000	12,033,593	1,966,407

（支出の部）

事業費

科目	予算額	決算額	予算残額
■NGO支援事業			
海外支援事業費			
ﾌｨﾘﾋﾟﾝ･JPCom-CARES 支援	4,848,614	4,848,614	0
タイ農村コミュニティ支援	2,126,314	2,126,314	0
調整にかかる海外渡航費等	200,000	40,000	160,000
事業助成事業費			
海外プロジェクト助成（カンボジアKCD］）	2,000,000	631,380	1,368,620
調整にかかる海外渡航費等	200,000	7,500	192,500
日本支援事業費			
宮城県における福祉・防災学習推進事業	700,000	1,004,613	-304,613
■NGO支援事業計	10,074,928	8,658,421	1,416,507
■文化交流活動支援事業			
フィリピンスタディツアー事業費	400,000	0	400,000
フィリピンしょうがい児・者自立生活プログラム事業費（チャリティラン前年度繰越）	0	64,255	-64255
■文化交流活動支援事業計	400,000	64,255	335,745
■視察・研修・ワークショップ			
国内 IDoCafe 事業費	30,000	0	30,000
招聘視察・研修事業費	400,000	2,500	397,500
■視察・研修・ワークショップ計	430,000	2,500	427,500
■パートナーシップ推進事業			
調査事業費	2,800,000	2,400,000	400,000
■パートナーシップ推進事業計	2,800,000	2,400,000	400,000
■情報提供事業			
情報提供事業費	30,000	27,508	2,492
■情報提供事業計	30,000	27,508	2,492
事業費支出計	13,734,928	11,152,684	2,582,244

（支出の部）

	科目	予算額	決算額	予算残額
管理費				
	給料手当	650,000	394,400	255,600
	旅費交通費	50,000	29,000	21,000
	会議費	10,000	20,999	-10,999
	通信運搬費	30,000	38,581	-8,581
	消耗品費	90,000	122,595	-32,595
	印刷製本費	30,000	31,020	-1,020
	保険料	60,000	65,380	-5,380
	支払地代家賃	120,000	120,000	0
	諸会費	15,000	25,000	-10,000
	支払手数料	20,000	24,572	-4,572
	租税公課	2,000	1,050	-950
	減価償却費	0	66,230	-66,230
	法人税、住民税及び事業税	70,000	50,000	20,000
管理費計		1,147,000	988,827	158,173
当期支出費用合計(B)		14,881,928	12,141,511	2,740,417
当期収支差額(A)-(B)			-107918	
前期繰越金(C)			103,307	
次期繰越金(A)-(B)+(C)			-4,611	

2021年度　コミュニティ・４・チルドレン(C4C)　事業計画書
Community 4 Children
2021年6月1日～2022年5月31日

現地での新型コロナウイルスによる影響をみながら、コミュニティの住民やスタッフが安心と安全を確保できるように徐々に活動を進めていきます。これまでの活動を止めることなく、現地スタッフや対象地域の人々のコミュニケーションがスムーズになるようオンライン化を充実させます。

1. NGO支援事業

1－1. 海外支援事業

フィリピン国 JPCom-CARES への支援とタイ国ノーンメック村コミュニティ支援事業は継続します。各地の現地の団体や個人が主体的に助成金等の多彩な財源を獲得できるよう、C4Cからもアドバイスを行います。

A. JPCom-CARES(フィリピン共和国バギオ市、ハッピー・ハロー村、ベンゲット州カバヤン町)

2021 年度も、コロナの影響が続く見通しのため、リハビリテーションセンターを拠点とした療育とオンラインを活用した在宅での療育の両方の取り組みを継続していきます。人が集う行事や地域に出向いての活動はまだまだ難しい状況ですが、小グループ・短時間で実施するなど、交流や繋がりが途絶えないように可能な方法で取り組んでいきます。また、コロナをきっかけにバギオ市から始まった保護者のサバイバルガーデン（軒先ガーデニング）では、野菜販売を通した副収入や食費の抑制を目指し、保護者の生計支援に繋がるように取り組み、カバヤン町へと活動を広げていきます。

B. タイ・ノーンメック村コミュニティ支援（タイ王国コンケン県）

2021年度は、コロナの状況を見て、安全を確保しながら、村人でもあるローカルスタッフを中心に、有機農業推進とコミュニティ林の保護・保全活動を行います。ノーンメック村周辺地域へも活動のネットワークを徐々に広げます。また子どもたちに開放する場所の運営方法も改善し、より安全な居場所づくりを目指します。

これまで以上に、子どもたちがコミュニティ活動に気軽に参加できるように、家族単位で稲作や公共地の植林活動における『結』に勧誘し、コミュニティの絆の強化を図る他、有機農業の普及に努めます。

また新たな事業としてコミュニティ・マーケットを念頭においたワークショップ、研修などを行います。近所の市場での対面販売、オンライン販売、国内向けエコツアーなどに向けて、有機農業で生産した　種苗、果物、野菜、草木染布、シャンプー、洗剤などをどのように生産・加工するのかを、家族やコミュニティ単位で村人たちと考えていきます。

C. 海外プロジェクト助成（短期の事業単位での助成）

Khmer Community Development(KCD)－カンボジア国カンダール州プレックチュレイ地区の子ども会活動の支援を継続して行います。コロナの状況を見ながら、2021 年度は事業対象地における子ども会のインターネット環境を改善します。これまで休校が長く、通信環境が悪くオンライン授業が受けられなかった子どもたちに平等な教育機会を与えるために、そして今後の村外の青少年との交流のためにもオンラインでの活動は重要だと考えます。

また有機農業普及も現地の状況と必要性も鑑みた上、必要な支援を行います。

1－2. 国内支援事業

A. 宮城県における連携・協働で取り組む福祉・防災学習推進事業

東日本大震災の経験を教訓として今後につないでいくための防災ゲームの完成にともなう普及啓発活動、仙台市内の学生団体や地域団体と連携した防災レシピカレンダー作成、HumanBeing 公式ホームページ・Facebook ページ・LINE の開設にともなう福祉防災学習プログラムの情報発信、県内を中心とした福祉・防災学習実践支援などを予定しています。東日本大震災から 10 年が経過した宮城における東日本大震災の教訓の伝承や、福祉・防災学習推進の担い手育成・基盤づくりを目指します。

B. 国内プロジェクト助成

日本国内で子どもたちを中心とした地域づくり等を行っている団体のヒアリング調査･視察を実施し、対象事業を検討し、支援要請があった場合に、別に定める助成要項に沿ってその都度検討します。

2. 文化交流活動支援事業

2－1. スタディツアー

A. タイ・スタディツアーの実施

コロナの影響で直接現地に行くツアーの開催予定はありません。ただし 8 月、11 月にオンライン・ツアーを企画します。

B. フィリピン・スタディツアーの実施

オンラインでの開催を検討しています。

C. カンボジア・スタディツアーの実施

コロナの影響で開催予定はありません。

2－2. 国際交流事業

コロナの影響で青少年国際キャンプの開催予定はありません。しかし 2 か国間の交流（日本・カ

ンボジア、カンボジア・タイ）はオンラインでの開催を検討しています。

3. 視察・研修・ワークショップ事業

3－1. 視察・研修事業

理事、社員、寄付者、専門家を中心とした現地視察、連携団体に所属するスタッフ、利用者への研修、および連携団体間の交流を実施します。

- 日本、タイ、フィリピンをはじめラオス、カンボジアなどのアジア諸国で、C4C と関連する活動を行う団体、個人との相互交流を図ります。
- 日本国内での現地報告会、講座や演習の開催、講師派遣
- 子どもを中心にした地域づくり推進を目的とした講座や演習の実施、もしくは講師およびアドバイザーの派遣

3－2. 国内 IDoCafe 事業（年 2 回開催予定）

IDoCafe は、何らかの想いを形にし、社会に貢献しようと考える人々が、ディスカッションを通じて新しいつながりを生み出す場です。国内での情報発信のために、オンラインで開催を計画します。

4. パートナーシップ推進事業

4－1. 調査事業

- 日本、タイ、フィリピンをはじめ、ラオス、カンボジアなどのアジア諸国で、子どもたちを中心とした地域づくり等を行っている団体のヒアリング調査・視察を実施し、対象事業を検討し、パートナーづくりを進めます。
- 昨年度に引き続き、アジアや日本で活動する団体へ調査員を派遣すると同時に、これまで出会った団体との交流を深め、現場の状況やニーズから支援のやり方やあり方の相互理解を進めます。
- 宮城県における福祉・防災学習推進事業を推進するための調査研究・調整を年間委託して行います。

4－2. ホームページやブログなどを通じて、C4C の取り組みを発信しパートナーづくりを進めます。

5. 情報提供事業

5－1. ホームページ、ブログによる情報発信

ホームページや Facebook、Ｃ４Ｃだよりの発行や活動ブログの更新を通して、C4C の取り組みを発信していきます。

5－2. イベント参加

ワンワールドフェスティバル等、国際協力や地域づくりに関連する様々なイベントに参加し、C4C の活動を紹介します。

5－3. 支援キャンペーン

支援団体や支援事業への寄付や参加を呼びかけるキャンペーンを実施します。

5－4. 現地提携団体への情報提供

世界の動向をはじめ、活動をサポートする情報を提供します。

6. その他

上記の他、C4C の目的を達成するために必要な事業を実施していきます。

2021 年度　一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン事業収支予算書 2021 年６月１日～2022 年５月 31 日			
		金　額（円）	備考
（収入の部）			
1．会費収入			
	正会員会費	300,000	
	賛助会員会費	300,000	
2．寄付金収入		11,300,000	
3. 事業収入			
	フィリピンスタディツアー事業収入	0	
	タイスタディツアー事業収入	40,000	オンラインツアー
4．民間助成金		0	
当期収入合計（A）		11,940,000	
(支出の部)			
1．事業費			
■ＮＧＯ支援事業			
海外支援事業費		（JICA 精算レート 2021 年７月に準ずる）	
	タイ・農村コミュニティ支援	1,856,398	537,630 タイ・バーツ
	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ・JPCom-CARES 支援	4,099,297	1,801,461.26 ペソ
	調整にかかる海外渡航費等	100,000	
事業助成事業費			
	海外プロジェクト助成	663,312	カンボジア KCD 支援$6,000
	調整にかかる海外渡航費等	100,000	
日本支援事業費			
	宮城県における福祉・防災学習推進事業	943,000	
■文化交流活動支援事業			
	フィリピンスタディツアー事業費	0	
	タイスタディツアー事業費	40,000	
	国際交流事業費	0	
■視察・研修・ワークショップ			
	国内 IDocafe 事業費	30,000	
	招聘視察・研修事業費	100,000	
■パートナーシップ推進事業			
	調査事業費	2,800,000	調査研究業務委託費 252 万円（宮城県）含む
■情報提供事業			
	情報提供事業費	30,000	HP 管理、イベント参加料等
	事業費計	10,762,007	

2. 管理費			
	給料手当	650,000	事務パート１名
	旅費交通費	50,000	
	会議費	10,000	
	通信運搬費	50,000	
	消耗品費	90,000	
	印刷製本	30,000	
	保険料	60,000	
	支払地代家賃	120,000	
	諸会費	15,000	
	支払手数料	20,000	
	租税公課	2,000	
	法人税、住民税及び事業税	70,000	
	管理費計	1,167,000	
当期支出合計（B)		11,929,007	
当期収支差額（A)-（B)		10,993	
前期繰越金（C)		-4,611	
次期繰越金（A)-(B) ＋（C)		6,382	